

6月は様々な行事が行われました。13日(木)、高校1年生と中学1年生を対象に「ミュージック・アウトリーチ」が行われました。これは、アメリカから訪れた約30人のキャストによるダンスや歌の指導を通じて、自己開示を促すプログラムです。午前中から昼過ぎまで、ショーに向けて準備をします。この過程で、生徒たちに変化が見られます。ショーを終え、生徒はかつて出会えなかった自分に出会うことができました。

20日(木)、広島サンプラザにて「体育祭」が行われました。全校生徒931名が集い、「新体育祭」と称して、競技や応援にこれまでにないものを取り入れて実施しました。生徒主体の体育祭を目指し、生徒自治会が中心となって取り組みました。実に躍動感あふれる、素晴らしい体育祭となりました。

(右の写真は、「応援賞」を獲得した高校2年生の応援席)



「習慣が変われば自分が変わる」

6月5日(水)、岡山大学・中山芳一先生による中学3年生、高校1・3年生(2クラス)を対象に特別授業が行われました。内容は、「協創ルーブリック」を生徒自らの考えで再構成してみようというものでした。本校の教育目標は、「グローバル・イノベーション・リーダーの育成」ですが、その達成のためには、「4つの力」が必要であると定義しています。そこで特別授業のこの時間は、その4つの力を言葉(どんなときに、どんな行動ができていくか)にするとどうなるか? ということを考える時間になりました。

中山先生が準備してくださったワークシートに従ってグループで話し合いながら授業が展開されましたが、そのワークシートの最初に先生が次の言葉を大きく掲げておられました。

言葉にすれば意識が変わる
意識が変われば行動が変わる
行動が変われば習慣が変わる
習慣が変われば自分が変わる

先生からあえて詳細な説明はなされませんでしたが、多くの生徒は何かを感じ取った様子でした。恐らく先生は、生徒自身が、自分たちが変わっていくことによって学校を変えていこうじゃないかというメッセージを発してくれたのではないかと感じました。

中山先生のメッセージに触発され、6月12日(水)の職員会議において、先生方に次のように話しました。「先日、中山先生が『言葉にすれば意識が変わる…』というメッセージを生徒に発して特別授業を行った。私はこのメッセージを大切にしたい。建学の精神、教育目標に則り、『日本一、挨拶ができる学校』にすることを目標としたい。だからこそ先生方、これまで通り、いや、さらに意識しながら我々が率先して教員同士、生徒に向けて挨拶を心掛けていこう」と伝えました。

さて、先日、教育実習が終了しましたが、その実習生の中にも自分を変えようとする学生がいました。その学生からのある先生への手紙です。

「3週間、ご指導いただきありがとうございました。教育実習で久しぶりに協創に戻ってきて、〇〇先生の授業を受けて、また先生の生徒に戻れたような気がしてすごく嬉しかったです。この3週間で先生から本当にたくさんのことを学び、成長することができました。

(中略) 私はずっと、教師になる自信がありませんでした。塾の講師や高校の学習支援で先生をすればするほど、自分の思い描く教師との差を痛感し、教師になることの難しさと自分の不甲斐なさに打ちひしがれてきました。今回の教育実習も、私なんかどうせうまく出来ないと不安な気持ちでいっぱいでした。でも、他の先生からはダメ出ししかされないような私の授業を、良くなった、うまくなったって褒めてくれて、良い先生になれるって言ってくれて、本当に言葉にできないくらい嬉しかったです。

先生がいなかったら、私は高校を卒業すること、大学に行くことも、教育実習を無事に終えることもできなかったと思います。先生のお陰で諦めずにここまで来ることができました。私はいつか必ず〇〇先生のような立派な教師になります。このご恩は一生忘れません。本当にありがとうございました。」

実に素晴らしいことです。人は何かしら自らの成長を願う生き物です。しかし、自らが行動を起こさずして何も変わることがありません。変わろうとする意識がなければ変わらないのです。何からどう変えていくか、それは、あくまでも良い習慣を携えることに帰結するのでしょうか。そのためには、「心」の動きが平静で、満ち足りているかどうかが必要ではないかと考えます。